

今回の出前講座には、埼玉から大迫に移住した塩野さんも、宮澤賢治記念館のスタッフとして同行してくださいました。賢治さんも大好きだった大迫の魅力について、6年生は学習していきます。

さきがけ

岩手日日新聞6月21日号
(掲載許可を得ています)

令和4年6月21日
R4-号外4
花巻市立大迫小学校
0198-48-2226

6年生のみ配付

賢治と音楽 つながり理解

大迫小で「精神歌」演奏、児童聴き入る 出前講座

花巻

花巻市大迫町の大迫小学校(宮川琢夫校長、児童115人)で20日、宮澤賢治記念館による出前講座「賢治の世界セミナー」が開かれた。児童たちがチェロやバイオリンなどの生演奏を聴き、宮澤賢治と音楽のつながりに理解を深めた。

(第3種郵便物認可)

【社会】

(9)

セミナーは郷土の偉人に興味関心を深める機会にしてもらおうと開催しており、同校では6年生17人を対象に実施。同日は宮澤賢治学会イーハトーブセンターの林秀さんがピアノ伴奏を務め、バイオリン奏者山口あういさん、チェロ奏者三浦祥子さんと共に三重奏を披露した。

林さんは「賢治さんは音楽とのつながりが強い。チェロを所有し、生前はベートーベンが好きだった」と説明。3人は賢治が作詞した

た「星めぐりの歌」「精神 イメライ」を演奏した。歌)、シューマンの「トロ」。「精神歌」は川村悟郎



大迫小の6年生が賢治と音楽のつながりについて学んだ賢治の世界セミナー

堀籠文之進と3人で作り上げたといい、林さんは「仲間と一緒に何かをやり遂げることはとても大切だ」と呼び掛けた。
佐々木直君(12)は「生演奏を聴くのは初めてだったので感動した。賢治さんの思いが、残した曲に現れていることが分かった」と学びを深めた様子だった。

